

令和5(2023)年度

ウィークエンド青少年セミナー

第1回 実施報告

実施日:令和5(2023)年9月30日



ウィークエンド青少年セミナーは、青少年がボランティアについて学び、講座やイベントの企画や実践を通して、ボランティア活動や地域貢献活動に参画するために必要な知識や技術の習得を目指すセミナーです。

第1回は、講話・演習「地域で学べることは何だろう?」、演習「親子で楽しめる昔遊び・工作遊びを体験し活動している方から話を聞こう」を行いました。



○開講式

○講話・演習「地域で学べることは何だろう?」

総合教育センター職員

最初に、受講者それぞれのボランティア活動・地域活動に興味・関心のある理由やセミナーへの参加動機などを全員で共有しました。その後、ボランティアに関する基本事項を確認し、人生100年時代の到来など加速度的に変化する社会の中でのウェルビーイングについて考えました。その中で、自分の住んでいる地域との関係が良好であることもウェルビーイングにつながることも紹介しました。

最後に、地域課題について確認しました。自分の住む地域の課題について受講者同士で共有することで、住む場所や興味の違いによって、関心のある地域課題にも違いがあることに気づきを得たようでした。

同じ志をもつ仲間とともに取り組む最初のアクティビティで最初は緊張気味であった受講者も、和やかな雰囲気の中で活動することができました。



○演習「親子で楽しめる昔遊び・工作遊びを体験し

活動している方から話を聞こう」

栃木県総合教育センター開放事業「学びの杜の冬休み」の中で、子どもたち向けの講座を実施するための企画・準備・実践をする演習(当セミナー第3～5回で実施)に向けて、アイデア出しのヒントとなるレクチャーを行いました。

●工作遊び

栃木県子ども総合科学館 展示課長 室岡 久男 氏

子どもたちができる工作遊びについて、楽しく取り組むためのコツや事前の準備の重要性、安全面で配慮するポイントなど、講座を運営するために必要なポイントを学びました。室岡氏から科学的な原理のレクチャーもあり、楽しい中にも学びの要素がちりばめられていて、受講者は運営側の立場から講座運営に必要な視点について、体験を通して理解を深めていました。また、講師の指示の仕方や気配りなども、とても参考になったようでした。



●昔遊び

総合教育センターボランティアの会

センターボランティアの会の方々は、普段から家庭教育支援に関する地域での活動に取り組んでおり、子どもたちを笑顔にするコツを知り、費用負担の少ない材料で遊びを創り出すプロです。今回は、身近な材料で楽しい遊びにつなげる方法や子どもの体験活動の重要性を中心にレクチャーしていただきました。

折り紙や新聞紙、ペットボトルなどを使って、簡単な工作をした後にできるゲームや、お手玉やカルタなど昔ながらの遊びについて、説明を交えて教えていただきました。受講者は、手軽にできる遊びの魅力を体感するとともに、子どもたちにもどのように楽しんでもらうか、運営側からの視点でも考えていて、頭と体をフル回転して演習に取り組んでいました。



振り返りでは、学びの視点、効果的な運営の視点、安全配慮の視点など、午後の演習で学んだことを整理しました。また、午前の内容も含めた 1 日の研修の受講を通して得た新たな学びや気づきについて、積極的に自分の考えや意見を出し合っている受講者の様子から、自分自身の成長とともに、子どもたちに充実した学習機会を提供できる技術を身につけようとする、研修に臨む熱い想いが感じられました。



受講者の声

- 地域には、今まで気付かなかった多くの課題があると分かり、このセミナーで地域社会への参画についてたくさんのことを学び活かしていければいいなと感じました。
- 自分の視点から地域課題について見てみることで、今、そしてこれから自分が何をしていけばよいかに気付けたと思います。
- 自分の地域だけでなく、他の地域の課題についても聞くことができ、学びがたくさんありました。
- 何事においても、先を見据えて今やるべきことを把握することが大切だと感じました。
- ボランティア活動の先駆性の重要さを知ることができました。
- 目的をしっかりと意識しながら活動が続けていきたいと思います。
- 参加者として演習に取り組むことで、自分が運営側だったらどのように教えるか、関わるかについて考えることができました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで！

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp